

モンタナ州立大学研修報告書

文学部 英語英米文学科 1812020 紫垣まりあ

モンタナ州立大学での一か月間の研修では主にリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能を学びました。学校は午前九時から午後二時までであり、午前中はリーディングとライティング、午後はリスニングとリーディングの授業がありました。先生は共にネイティブのアメリカ人でした。授業では様々な話題に触れ、英語だけでなく社会問題や身近な問題について考えることもできました。例えば、今回の研修では臓器移植の問題や学校での授業はどうあるべきか等について考えました。普段はあまり気にしたことのない話題を英語で聞き、英語で話すのはとても難しかったです。その分日本の学校では習わない専門的な単語などを学べて大変ためになりました。また、クラスには私たち日本人だけでなく別の国からの留学生も数名いらっしゃいました。彼らと同じ教室で授業を受けていて感じた、日本人との最も大きな違いは、授業中に積極的に発言するということです。もちろん日本人が積極的に発言をしないと一概には言えませんが、その差は圧倒的に思えました。他の留学生がどんどん発言している間に日本人が先生との会話に入る隙がなくなり、置いて行かれそうになることも何度ありました。そこで、恥ずかしがらずに積極的に発言し、分からないことがあったらためらわずに先生に質問することで、同じ授業でもより多くのことを吸収できるのだなと思いました。また、ライティングの授業で数回行われた単語テストは、日本のように単語そのものを書くのではなく、単語の定義とその単語を用いた例文を書くというテスト形式でした。個人的に、このテスト形式の方がより定着しやすいと感じました。そして授業中に疲れをとるためのお菓子等を先生が用意していただき、授業中に自由に食べてよいということもありました。このように、日本とアメリカの学校の授業の実施方法の違いも見つけることができました。

午後二時までの授業が終わると、学校内や外でのアクティビティがありました。ここでは身体を動かしたり観光スポットを巡ったり、学校周辺やショッピングモールで散策したりしました。写真は、大学内にあるロッククライミングです。ジムや体育館は、私たちでも自由に使うことができたため、放課後皆で集まって身体を動かしました。家でも学校でも英語



しか喋らないというのは非日常的なことでストレスを感じる人もいたりするので、こういった活動がいい気晴らしにもなったと思います。また、アクティビティの一つとして印象深いのはペインティングです。日本では、英語で絵の描き方を習う機会などなかなかないため、とても新鮮でした。

こちらがその時に描いた絵です。モンタナ州の形に縁取



られており、野生の動物が多く生息するモンタナ州を象徴する熊が中央に描かれています。

この研修全体を通して感じたことは、英語はコミュニケーションの手段の一つに過ぎないが、逆に言えば素晴らしいコミュニケーションツールであるということです。アメリカには様々な国から来た人が集まっています。実際学校で一緒に授業を受けていた他の留学生はインドネシア人とマレーシア人でした。共に母国語が英語ではない国から来た方々でしたが、英語を勉強しているおかげでコミュニケーションをはかることができました。しかし、ホストファミリーと会話する中で、相手の言っていることが理解できなかつたり、自分の言いたいことがそのまま伝わらなかつたりしました。その分、学校では習わない会話表現や単語を覚えることができました。そこで私が感じたのは、留学やホームステイにおいて大事なことは分からないことや少しでも不安なことがあつたらすぐに質問したり、聞き返したりするということです。ホストファミリーや学校の先生が言うことの中には聞き逃してはいけない大事な連絡もあります。それを理解できたふりをして分からないままにしているとすれ違いや問題を招くことになります。だから聞き返すことを恥ずかしいと思わず、自分が確実に理解できるまで質問することを今後も意識しようと思いました。また、間違えることを怖がらずにどんどん英語を口にすることが上達への近道だと思いました。実際に話さなければ間違いを見つけることもできません。話してみて文法的な間違いがあつたとしてもある程度のことは理解してくれて、訂正してくれます。そこでまた新たなことを学ぶことができます。このように何事も失敗を恐れず、自主的な姿勢で挑んでいくことが大切だとこの一か月間の研修を通して痛感しました。